

スクールカウンセラー(SC)だより

2中校区SC

木下 亜子



こんにちは！ スクールカウンセラーの木下です。

2月と5月終わりにそれぞれ1週間、能登の小中学校に文科省の派遣でスクールカウンセラーとして行ってきましたので、お伝えさせていただきます。

被害状況は様々なニュースでご存知かもしれませんが、悪路のため、羽咋市（金沢市から北へ電車で1時間の距離）にある青少年宿泊施設の大部屋に宿泊し、そこから毎日自分たちで運転してかよっていました。当初は往復6時間掛かっていましたが、現在は道の整備が進み、4時間に短縮出来るようになったので少し楽でした。

とはいえ、崩れた建物が現在も道にはみ出して1車線になるぐらいの場所もあるほどで、復興の進捗状況は厳しいと感じています。

校内では児童の元気な声が響いているのに、校舎からの景色は変わらないので、気持ちをいくら切り替えても復興が進まないことに大人のほうが滅入るのではないかと心配になるほどです。どこの学校でも児童生徒のメンタルケアに全力な先生方の姿をみているだけに。そこで、養教の先生を中心として、元気にみえる先生こそ気持ちが切れてしまわないよう、中長期のリスクなどを再確認しました。

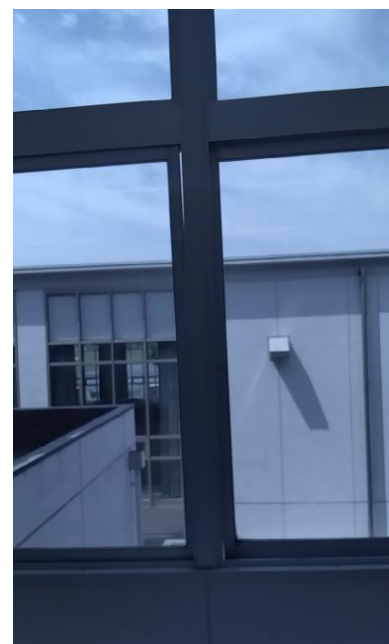
一方で 児童や生徒にとって学校が非常に重要な居場所であり心の拠り所でもある事や、教職員の士気や前向きな言動がとても良い影響を与えていることを痛感します。心理士として、元気な面を引き出していく事も大切だと思って関わらせて頂きました。

ねこの気持ちを使って児童に行った心の授業のひとこま→



6月現在でも避難している方々が校内の教室や体育館におられるので、学校というより公民館？公共施設のような雰囲気のところもあります。

また、自衛隊や警察の数は減りつつも活動しているのと、山積みになっていた物資も少しずつ整理されていました。



ただ、一部の学校では校舎が微妙に傾いたまま授業を行っており、そこにしばらく立っていると吐き気がして私は本も読めなくなりましたが、生徒は「慣れたら大丈夫」と平気な顔。

先生方に伺うと「私は傾いた校舎に居るのは短時間しか無理」と仰っている方もいらっしゃったので個人差があるようですが、校舎の建て直しの話は一度も出ていないことも気がかりです。

←傾いているため閉まらない窓

他にも気になったことは色々あります。

全国の児童生徒から応援のおたよりが届いていますが、感謝の心とは別にして、返事を書かないと…校内に掲示しないと…という雰囲気も私個人としては感じました。特に震災直後に加えて3学期で…。東日本大震災の際は、返事の来ない学校に文句をつけたところもあるそうで。

また、押しかけ慰問の中身が政治活動で、児童生徒が困惑する場面もあり、一方的な自己満足にならないように気を付けたいと思いました。いや、SCとして行く事自体も押し付けなので、学校のニーズを聞き取って邪魔にならずに活動することが大事だなと感じました。

色々反省ばかりではありますが、児童生徒の皆さんや先生方の奮闘に思いをはせながら、大阪のSCとして出来ることを精一杯していこうと考えております。